

場の理論と日本語の文法現象

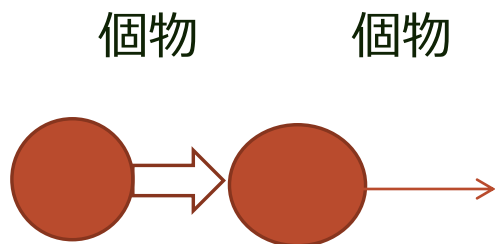
東京学芸大学
岡 智之

本ワークショップの目的

- 場の理論に基づいて、日本語の文法現象を解明し、その有効性を例証する。
- 場の理論の深化・発展を目指す。
- 場の言語学への理解を深める。

場の理論とは何か？

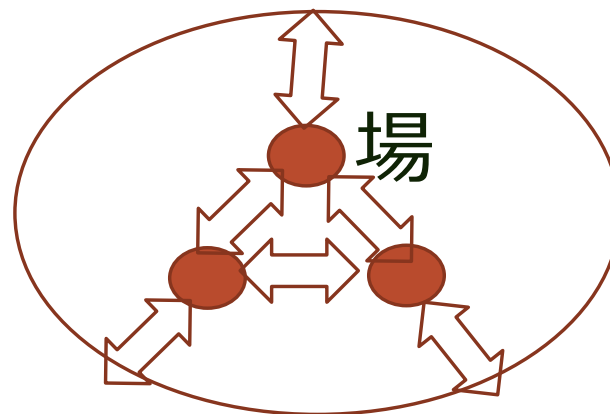
- 物理学における場（場の量子論）
個物と場の相互作用がポイント。



個物と因果関係のパラダイム

ニュートン力学

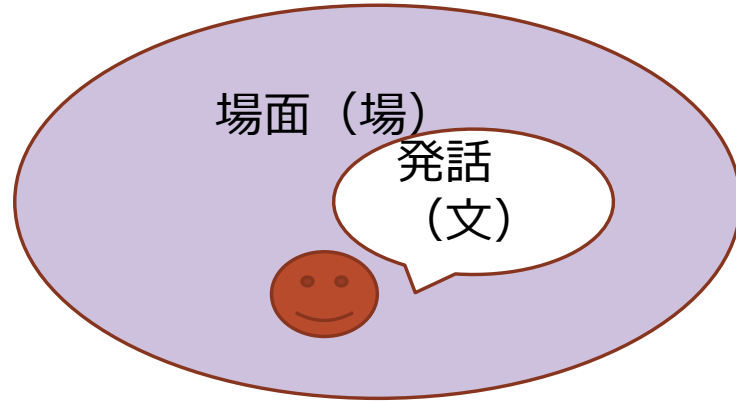
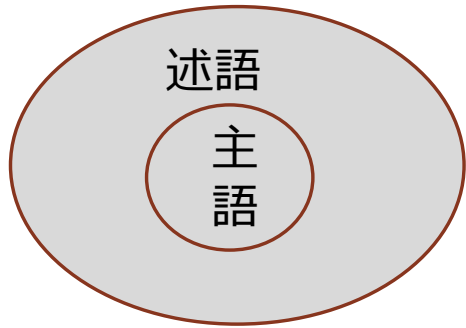
(因果連鎖、動力連鎖、ビリヤードモデル)



個物と場の相互作用

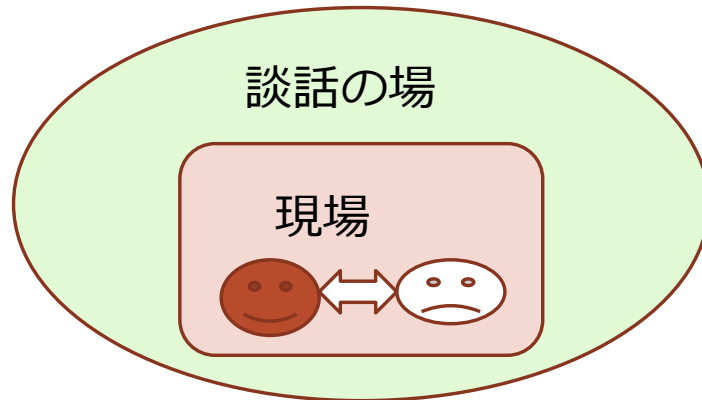
場の量子論

言語学における場



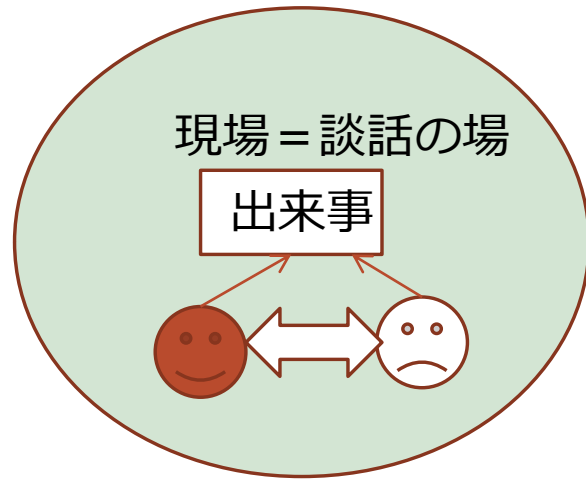
□ 述語が主語を包む

場が発話を規定する



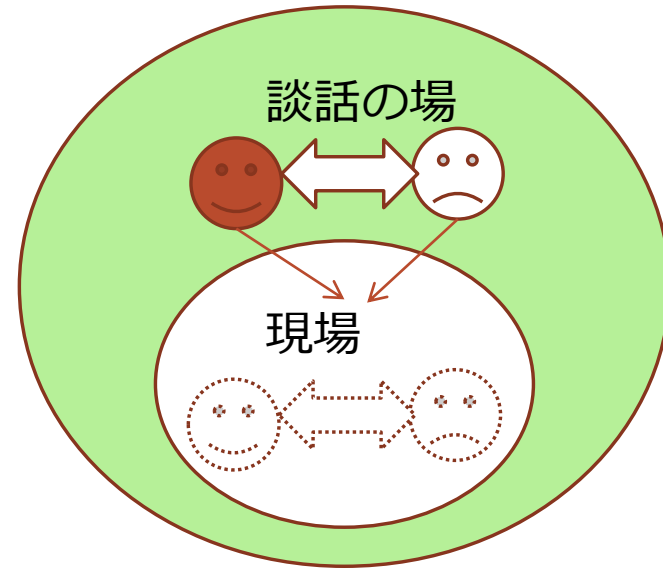
事態把握の場の観点からの捉え返し

□ 主観的把握



発話者は現場に埋め込まれ
出来事を丸ごと捉える

客観的把握



発話者は現場から離れ
観念的に出来事を捉える

本ワークショップの概要

- 発表1：岡 智之（東京学芸大学）「場の理論と言語類型論」10:05~10:25
- 発表2：新村朋美（フリー）「直示用法の指示詞・人称詞にみる日英の「場認識」の違い」10:25~10:45
- 発表3：櫻井千佳子（武蔵野大学）「言語獲得にみられる事態把握と場の言語学」10:45~11:05
- 発表4：小柳 昇（東京外国語大学）「存在スキーマを基本とした日本語の自他交替の分析－場所の焦点化はどのような構文と意味を創り出すか」11:05~11:25
- 発表5：大塚正之（早稲田大学）「日本語の文法・談話と場の理論」11:30~11:50
- ディスカッション：中村芳久（金沢大学）11:50~12:05
- 質疑応答 12:05~12:20

場の理論と言語類型論

本発表の目的

- 能格言語の定義の捉え返し。

能格言語は、ナル型言語であり、能格自体は主語ではなく、元来場所性を持ったものである可能性を示す。「場所においてコトがナル」という事態把握。

- 動詞分類の捉え返し

「非対格動詞」という分類は対格言語から見た転倒した用語。場所的観点から「所動詞」という類型を精緻化させることを提案。

能格言語と対格言語の一般の定義

- 対格言語...自動詞の主語と他動詞の主語が同じ形態（主格）をとり、他動詞の目的語が対格となる言語。（太郎が窓をあけた。窓があいた）
- 能格言語...自動詞の主語と他動詞の目的語が同型（絶対格）となり、他動詞主語を別な格（能格）で示すような格組織を有する言語。
（窓☆ひらく。太郎◎窓☆ひらく）

能格言語の定義のとらえ直し

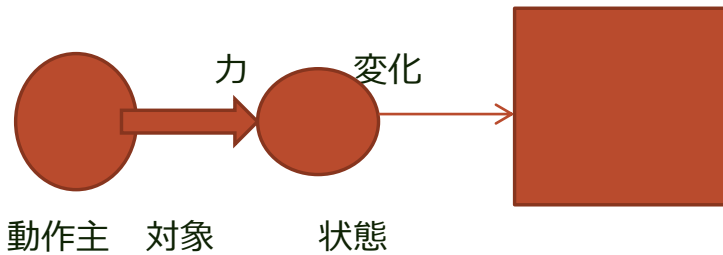
- 能格構文の能格は他動詞の主語ではなく、主辞的補語にすぎない（『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂、1996：1051）。
- 池上（1981：229）…能格言語の文型は、
〈Aによって、Bが動く〉
「対格型の「言語」では主語として文の中心的位置を占めうるAの部分は、ここでは出来事の〈起因〉を表す附属的な部分に過ぎない。」

(1) a. 風が 扉を ひらいた。

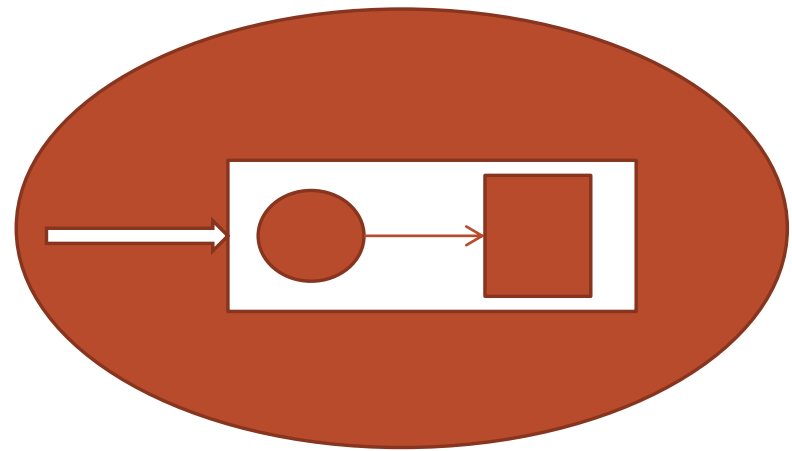
主格 対格

b. 風で 扉が ひらいた。

具格 主格



対格型言語の事態把握



能格型言語の事態把握
(場所で出来事がナル)

デ格「主語」の場所性

- (2) その殺人事件は新宿署で捜査している。
- (3) こちらで（当方で、手前どもで）それを処理しておきますよ。
- (4) 施設から町に出た人々で、十三年前「わかば会」を結成した。
- (5) 君とぼくとで『雷同嫌会』というのを拵えないか？
- (6) 私一人で行く。（近藤2005）

非対格性の仮説への疑問

- 「非能格動詞」...自動詞の中で能動的な行為を表すもの。例) 「歩く」「飛ぶ」
 - 「非対格動詞」...状態や存在・出現、非意図的行為などを表す動詞 (影山1996) 「ある」「起こる」
 - 「非対格性の仮説」... 「非対格動詞の主語が統語構造 (D構造) において目的語相当として規定される」 An accident occurred.
- ← () occurred an accident.
- →対格を持つ他動詞構造を言語の基本構造とする発想。「非対格動詞」という呼び名自体が、対格言語を基準にした転倒した呼び名である。

- 「非対格動詞」というのは、意味的に「存在・出現・発生」を意味する動詞で、There構文に生じる（影山1996）

(7) An accident occurred.

(8) There occurred an accident.

- 「そこで、事故が起こった」

→ 「場所で、コトがナル」という事態把握

- ★ 「非対格動詞」構文こそ、能格構文であり、ナル型構文である

能動詞と所動詞の分類

- 能動詞...有情者の意図的行為を表す。
- 所動詞...「ある、見える、聞こえる、音がする、要る、似合う、できる、飲める」など存在、知覚、必要、可能などの「自然にそうなる」という意味を表す動詞
- 所動詞は位格を要求する
(9) 坊やにもう三輪車が要ります。(三上 1953:107)
「非能格動詞」→能動詞、 「非対格動詞」→所動詞

ご清聴ありがとうございます。
うございいます。